

理 科

主任：岡 靖浩

(1) 今年度の目標

- ① 自然現象に関する興味関心を育てる。
- ② 関心を持った事柄について、自ら考察する力を養う。
- ③ 問題解決を行う力を養う。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 自然現象に関する興味関心を育てるために。
 - ア 授業を通じて、様々な科学賞や大学の高大連携企画等を紹介し、参加を促す。
 - イ 理科系の部活動の行事への参加を呼び掛ける。
- ② 自ら考察する力や、問題解決する力を養うために。
 - ア 問題解決に利用できるホームページを授業を通じて紹介する。
 - イ 定期的に課題を与え、提出を呼びかける。
 - ウ 自主的に取り組むことのできる問題プリントを提示する。
- ③ 問題解決を行う力を養うために
定期考査・校内模試・学力テストなどのテスト直しを、各自でまとめさせる。

(3) 授業アンケートの結果と分析

アンケートの結果は、「実験が印象に残っている」、「興味をもって授業に取り組んでいる」という生徒が多数だった。その結果として生物や地学は学ぶ意欲に身近な事象も多く、中学校で習った内容をより深く学んでいくために、取り組みやすかったのではないと思われる。

問題演習の例題およびその解説は学力差により、現状より簡単でよいという生徒もいる一方で丁寧詳しくしてほしいという生徒もいた。

授業そのものについては、全体的にどの科目も良い評価である。ただ、試験前の提出締め切りがなければ演習はやらないのが実情である。ノートや問題集の提出があると勉強できるとの意見が多い。

授業の雰囲気スピード等良好であったが、一部に進度についてはもう少し早くという意見がごく一部あった。

5問テストなどの取り組みにより、「復習する機会が増えた」という回答が多くなった。授業のスピード、板書内容などは「現状のままで良い」という意見が多かった。宿題やテスト範囲の問題集をきちんとすれば、結果につながってきていることが、分かり始めた生徒もいるようである。

毎時間のテストが効果的だったと感じている生徒がほとんどであった。

(4) 今年度の成果と課題

本年度から、2年生の土曜塾で理系の希望者に対して、物理・化学・生物の受験対策を始め、受講した生徒の受験に対する意識を早めに高めることになった。今後は、希望する生徒の数を増やしていきたい。

授業については演示実験などを含めて、限られた時間内で印象に残るなどの有効な実験を選抜し、問題演習の解説は学力の低い生徒にもわかりやすく、理解力の高い生徒には退屈にならない方法を工夫していかなければならないと思う。

1年化学基礎と2年化学のつながりをもう少し工夫し、進度を早めたい。

授業の後に振り返りカードに、授業内容などについて記述する機会を設けているので、その都度、こちらも生徒の意見を聴きながら授業に反映するようにしているので、今後も続けていきたいと考えている。

進度を少しでも早め、演習の時間を十分確保したい。

5問テスト、毎時間のテストなどは効果が期待できるので実施するクラス等を拡大していきたい。